

# 31Y-am09

機能性 MRI 造影剤を指向した DTPA-cholestanol 誘導体の合成

○玉川 晋也<sup>1</sup>, 八塚 研治<sup>1</sup>, 山崎 豊<sup>2</sup>, 河村 知志<sup>1</sup>, 根本 尚夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>徳島大院薬,  
<sup>2</sup>徳島大薬)

【目的】 Magnevist<sup>®</sup> は高いシェアを誇る MRI 造影剤の一つであり、主成分はジエチレントリアミン五酢酸・ガドリウム (DTPA・Gd) 錯体である。我々はこの DTPA のキレート能を維持したまま、機能性部位を結合させた誘導体を化学合成し、より優れた機能を有する診断剤の開発を目指している。

【方法・結果】我々は以前に DTPA への効率的なアリル基の導入法を開発し、報告した<sup>1)</sup>。今回、この手法を用いて得られたモノアリル化 DTPA 誘導体 **3** を原料とし、共通の中間体である **4** を経由して目的化合物 **1, 2** の合成に成功した。

DTPA-cholestanol 誘導体 **1, 2** は生体内で代謝容易なエステル結合の有無という違いがある。今後、動物実験を通して DTPA-cholestanol 誘導体 **1, 2** の有用性の検討を行う予定である。

